

# 昭和59年度の 農業観測の概要

農林水産大臣官房調査課

田村修一

以下は、6月22日に農林水産省が公表した「昭和59年度農業観測」の概要をとりまとめたものである。

## 1. 国内経済

58年度の国内経済は、アメリカの景気回復等に伴い輸出、生産が増加に転じ、年度後半には設備投資に持ち直しの動きがみられたほか、輸入も増加に転じる等、景気は緩やかながら着実な回復方向で推移した。また、物価は卸売物価、消費者物価ともに引き続き安定した動きで推移した。しかしながら個人消費は基調としては増加傾向にあったもののなお低い伸びにとどまった。

59年度の国内経済については、政府経済見通しでは、国内民間需要を中心とした景気の持続的拡大、雇用の安定及び物価の安定基調の維持等が図られ、実質成長率は4.1%程度の伸びになると見込まれている。

## 2. 農業生産をとりまく情勢

### (農業就業人口)

59年度の農業就業人口は、引き続き農業就業者の高齢化による引退等が見込まれるほか、農家経済はなお厳しい状況が続くとみられること等からみて、3%程度減少すると見込まれる。

### (農業生産資材価格)

農業生産資材の農村価格は、58年度は原油価格の引下げ等を反映して0.4%安となった。

59年度については、需要面からの価格上昇要因は小さいとみられ、また、コスト面でも、原油価格が安定的に推移していることや、最近の一般卸売物価の動向等からみてコスト圧力は弱いものとみられる。こうしたことから、総農業生産資材価格の年度中における上昇はわずかなものとなり、年度間では0~2%程度上回ると見込まれる。

### (海外農産物需給)

1983/84年度については、小麦は、アメリカ、ソ連が減産となったものの、中国、オーストラリア等が大豊作となり、需給は安定的に推移している。飼料穀物、大豆は、アメリカが大減産となったことから世界の在庫率は前年度を大きく下回る等、需給はひっ迫気味に推移している。

1984/85年度については、①小麦は、期初在庫が高水準であるほか、アメリカ等主要生産国の作付面積が増加し、生産は史上最高となった前年度を更に上回ると見込まれることから、需給は引き続き安定的に推移すると見込まれる。②飼料穀物は、期初在庫が大きく低下するものの、アメリカの作付面積の増加等から、生産は大きく増加すると見込まれ、需給はひっ迫気味に推移するとみられる前年度に比べ、わずかに緩和すると見込まれる。③大豆は、期初在庫が大きく低下するものの、最大の生産国であるアメリカの生産が大きく増加すると見込まれ、今後のブラジル、アルゼンチン等の作付動向にもよるが、需給が大きくひっ迫する可能性は小さいと見込まれる。

以上の需給動向からみて、1984/85年度に入ってから価格動向については、小麦はほぼ前年度並みの水準で安定的に推移し、とうもろこしは弱含みながらも安定的に推移し、大豆は現在程度の水準で安定的に推移すると見込まれる。

## 3. 農産物需要

58年度の家計における食料消費は、回復方向で推移した前年度に比べ停滞的に推移し、家計の1人当たり実質食料費支出は、0.4%減となった。

59年度の食料消費については、実質民間最終消費支出は、政府経済見通しにおいては、4.1%程度の伸びが見込まれること、農産食料品の消費者価格は、消費者物価総合の上昇を下回る小幅な上昇にとどまると見込まれること、一方、家計における食料消費も、選択的の強い費目を中心に緩やかな増加に転じると見込まれること等から、実質飲食費支出は、停滞傾向で推移した前年度の伸びを上回って増加し、農産物需要も緩やかに増加すると見込まれる。

## 4. 農業生産

58年度の農業生産は、耕種生産が低温、台風等の影響を受けわずかに減少し、繭生産も引き続き減少したが、畜産生産が総じて増加したことから、総合ではほぼ前年度並みになったと見込まれる。

59年度については、作柄を平年並みとみれば、⑦米に

表1 農業生産 (対前年度増減率(%))

項 目	56年度	57年度	58年度 (実績見込み)
農業生産総合	2.0	2.0	0.1
耕 種	2.9	1.7	▲0.7
養 蚕	▲11.1	▲2.3	▲3.5
畜 産	0.4	2.6	2.5
米を除く総合	0.0	3.3	▲0.2

については、59年度需給計画によれば、生産予定量1,090万トンに加え、他用途利用米約27万トンの生産が見込まれている。①耕種生産は、麦類、豆類、野菜が増加し、果実が減少するものの全体では3～5%程度増加。②繭生産は25%程度の減少。③畜産生産は、鶏卵が減少するものの、牛乳、豚肉、ブロイラー、牛肉が増加し、全体では1～3%程度増加と見込まれ、農業生産全体では2～4%程度増加すると見込まれる。

#### 5. 農産物生産者価格

58年度の農産物生産者価格は、畜産物は低迷したものの、耕種生産が野菜を中心に上昇したため、全体では2.4%程度上昇したと見込まれる。

59年度については、⑦野菜は、春野菜が寒波、降雪等の影響による生育の遅れ等からやや上回るものの、夏秋野菜、秋冬野菜は供給量の増加から、夏秋野菜はややないしかなりの程度下回り、秋冬野菜はかなりのし大幅に下回ると見込まれ、全体ではややないしかなりの程度下回ると見込まれる。⑧果実は、生産の減少から、みかん及びりんごがともにややないしかなりの程度上回ると見込まれ、全体でも前年を上回ると見込まれる。⑨畜産物は、牛肉は去勢和牛、乳用種おす牛とも前年度とほぼ同水準、豚肉、ブロイラーはわずかないしやや下回り、生乳はわずかに、鶏卵はややそれぞれ上回ると見込まれ、全体では前年水準になると見込まれる。以上等からみて、59年度の米、麦を除く農産物生産者価格(総合)

はわずかに下回ると見込まれる。

#### 6. 農家経済

58年4月～59年2月間の農業所得(1戸当たり平均)は、農業粗収益が一部農産物価格の上昇等から伸びを高め、一方で農業経営費の伸びも高まったものの、4.7%の増加となった。また、農外所得は一般賃金の伸び悩み等を反映して3.5%増と前年度の伸びを下回ったため、農家所得は4.4%増と前年度の伸びを下回った。

59年度の農家経済は、⑦農業総産出額は、農業生産が2～4%程度増加し、米・麦を除

く農産物生産者価格がわずかに下回ると見込まれることから、わずかに増加すると見込まれる。⑧投入面では、農業生産資材の投入、価格、固定資産の償却状況等からみて、わずかに増加すると見込まれる。このようなことからみて、生産農業所得はわずかな増加にとどまると見込まれる。以上等からみて、1戸当たり平均でみた農業所得はやや増加すると見込まれる。

他方、農外所得は伸びを高めると見込まれることから、農家総所得は前年度の伸びを上回り、やや増加すると見込まれる。

表2 農家経済—1戸当たり平均

項 目	実 額 (千円)	対前年度増減率(%)		
		56年度	57年度	58年度 (4～2月)
農 業 所 得	951.5	1.6	▲1.7	4.7
農業粗収益	2,575.6	5.4	0.9	4.7
農業経営費	1,624.1	7.9	2.5	4.7
農 外 所 得	4,013.2	6.8	5.5	3.5
出稼ぎ・被贈 ・年金扶助等 の収入	1,253.8	6.4	9.2	7.5
農 家 総 所 得	6,218.5	5.8	5.0	4.4